

今までも白銀のやうにしきつめられた野山
の雪はいつか吹く東風に、またらに消え失
せて軟らかに吹く東風に、楽しい春が生み
出された。野辺には生きくした草が芽をや
ぶつてのびてゐる。櫻は山に、たんぽ、すみ
れなどは野に、それくの美しい色をきそい、
暖い風は雲雀の高く御空に囀るのはこれ
からである。
河の水は勢よく流れて急な所は岩をも流
しさうである。鎮守の森の大松には、鳥が二
三羽平和の御代を唱うのかにぎやかには鳴
いてゐる。鳥居のそばの梅の蕾もよほかに大
きくなつてゐる。西の空には天をつくやう
な山はまだ真白い雪を頭にいただいて突
き立つてゐる。あれは勇姿堂々たる鳥海
山である。遠く連なつた田園の向ふは、静
かな霞の中に消えて見へる所など春はど
こまでものどかな時節である。